

## ブリ種苗放流技術開発事業\*

抄 録

中 地 良 樹

### 目 的

社団法人日本栽培漁業協会から委託されたブリ種苗放流技術開発調査事業で、本県沿岸域におけるブリの満1歳魚以降の分布、生態を究明するため、標識放流と漁獲実態等の関連調査を継続実施している。

詳細は「ブリ種苗放流技術開発事業、平成5年度報告、社団法人日本栽培漁業協会」として別途報告している。

### 方 法

#### 1 標識放流調査

平成5年12月8日にメジロ(天然魚)43尾、平成6年3月2日にブリ(天然魚)73尾を和歌山県西牟婁郡串本町串本東岸地先にそれぞれ「'93A串本放流群」「'93B串本放流群」として標識放流を実施した。

#### 2 関連調査

加太、串本の2漁協で銘柄別漁獲量調査、加太、湯浅中央、白浜3港(白浜、富田、椿の3支所)、見老津、里野の5ヶ所で有標識率調査を実施した。

### 結 果

#### 1 標識放流調査

標識魚の再捕は、平成4年度以前の放流群の報告はなく、'93A串本放流が、合計6尾で再捕率14.0%、'93B串本放流群が8尾で再捕率は18.6%であった。再捕場所は、メジロ級では市江崎～榎野崎の紀南沿岸域であるが、ブリ級では紀南沿岸域および三重県熊野市地先(59km)、高知県幡多郡佐賀地先(151.1km)であり、放流後1ヶ月未満の短期間に広範の移動がみられた。

#### 2 関連調査

##### (1) 銘柄別漁獲量調査

加太：ツバスは3.8tで近年好漁であった平成2年を大きく上回り、ハマチも不漁であった前年の約5倍の7.0tで平成3年の水準に回復した。メジロは4.1tで前年を下回り平成3年以降は減少傾向となった。ブリ類(ツバス～メジロ)は14.8tで近年最も不漁となった前年を上回ったものの、好漁であった平成2～3年の水準には達していない。

串本：ツバス、ハマチはそれぞれ5.6t、42.4tで不漁であった前年の7.4倍、6.1倍とかなり上回ったが、メジロは25.9tで前年を下回り過去6年間で最低となった。ブリは平成2年以降増加傾向にあったが前年比40%の1.5tに減少した。ブリ類(ツバス～ブリ)は過去6年間で最低であった前年の1.7倍の75.4tであった。本年の漁獲量の特徴は、まき網による漁獲が極めて多くブリ類(ツバス～

---

\*ブリ種苗技術開発事業費による。

ブリ)では47%、ハマチのみでは77%であった。

(2) 漁獲尾数調査

加太： ハマチ級(当才魚)は2年つづきの不漁を大きく上回り13,148尾を漁獲したが、メジロ級は前年の約1/3の925尾であった。

湯浅中央： ハマチ級は、前年をやや上回る程度(前年比1.2の1,523尾)で依然低調で、メジロ級では前年を更に下回った(前年比0.38の222尾)。

白浜： ハマチ級は、近年最低であった前年を更に下回った(前年比0.77の243尾)。メジロ級も、前年を更に下回り近年の低調が継続した(前年比0.62の359尾)。

見老津： 漁獲重量は、激減した前年を更に下回る不漁となった(前年比0.85の17.3t)。

(3) 有標識率調査

加太、見老津、里野では、標識魚の再捕は全くなかった。有標識率は、湯浅中央ではハマチ級で0.08%、全体で0.06%である。白浜(白浜、富田、椿の3支所)では、ハマチ級で0.45%、全体で0.16%で、有標識率はいずれも1%未満であった。